

企業DXを推進する指標の在り方に関する検討会

第4回 事務局説明資料

2025年5月

経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課

目次

1. 第3回検討会における各論点に関する議論の振り返り
2. 第3回検討会における合意内容の確認
3. 第4回検討会における論点
4. 今後のスケジュール

1. 第3回検討会における各論点に関する議論の 振り返り

第3回検討会における各論点に対する議論の振り返り

論点①-A： 成熟度レベルの 考え方について

- レベル4は自社内で成果を上げている状態であり、DX銘柄を取得している多くの企業が該当すると考えられる。一方でレベル5は社会貢献、業界やエコシステムをリードするリーダーシップなど、企業個社の枠を超えた影響力や貢献が求められると考える。
- CMMIのようなInitial、Managed、Defined、Quantitatively Managed、Optimizingといった表現が分かりやすいのではないかと。取組の広がりでも評価するよりも取組の内容で評価する方が適切だと思う。
- 中小企業への説明においても、各レベルに関する図は十分に活用可能だと考える。たとえば、A部門は営業、B部門は製造・サービス、C部門は総務といった具合に置き換えて説明すれば理解されやすいと思う。
- 取組の質で評価する方が分かりやすいと思うが、日本企業の実態として、取組の広がりで見ただけの場合において、レベル4以上を取得することは難しい。更に、レベル4以上も、ただ単に経営が関与して全社で進めているレベルと成果が出ているレベル、更に自社以外に業界等に価値を提供しているレベルという3段階に分かれると思う。

論点①-B： レベル5の設定 の仕方について

- 案2が良い。例えば、業界を大きく変えるイノベーションを起こしている企業、世界のリーダーになるような企業について加点するイメージで評価するのが良いと考える。
- レベル5は、個社の企業価値の実現を達成した上で、DXセレクトのグランプリに選定されるような業界の中でも更に素晴らしい取組を行っている企業を評価するものだと考える。そのため、統一的な記載にするのが良いと考える。
- 案1の企業価値向上は短期では達成できず中長期的な取組が必要なため、レベル5の評価基準の一つとして妥当だと考える。一方、案2のように他社から見て「目指すべき企業」であることも評価の難しさはあるもののレベル5の評価基準として適切だと考える。よって、案1と案2の双方がレベル5の評価基準になり得る。
- ITコーディネータのプロセスガイドラインでは「企業価値」「事業価値」「顧客価値」「社会価値」の4つを定義しており、企業価値と事業価値と顧客価値が積み重なった結果、社会価値が達成されと考えている。このことから、企業価値の達成がレベル4、社会価値の達成がレベル5と分けた方が良いと考えている。

2. 第3回検討会における合意内容の確認

第3回検討会における合意内容の確認

- DX推進指標の改訂において、第3回検討会を踏まえて、下記の方方向性で合意したとの理解であるため、本日は下記を前提とした上で議論を進めて頂きたい。

具体的な成熟度 レベルの考え方

- レベル0からレベル5の段階で設定すること。
- **レベル0からレベル4は個社内の取組として、レベル5は、個社内の取組ができている前提で、個社の枠を超えた取組としてそれぞれ設定をすること。**
- **レベル5については、社会価値を創出していることや業界の中でも先進的な取組を行っていることを評価する表現とすること。**

具体的なDX推 進指標（仮）の 立て方

- レベル5は、個社の枠を超えて業界を大きく変えるイノベーションを起こしている取組を評価するものであり、**各設問におけるレベル5の記載ぶりは統一的なものにすること。**
- 連続性のある「望ましい方向性」の記載については、設問を分けず、一つの設問とすること。
- 「望ましい方向性」に記載の内容は（一部例外はあるものの）基本的にはレベル4相当であるため、**設問は抽象的な記載としつつ、各レベルの段階の記載で望ましい方向性へのステップを記載すること。**

（参考）第2回検討会における合意内容の確認

- DX推進指標の改訂において、第2回検討会を踏まえて、下記の方方向性で合意したとの理解であるため、本日は下記を前提とした上で議論を進めて頂きたい。

設問の設定方法

- 案2（デジタルガバナンス・コードの内容をブレイクダウンした形で設問を設定）の方方向性で設問を設定していくことで合意。
- 一方で、重複感のある問題はまとめる、設問数は多くならないようにする、などの工夫は今後必要。

設問の成熟度レベル （具体的なイメージ含む）

- **（1）基本的事項を基にした設問（DX認定レベル）**については、内容をブレイクダウン（論点①で決めた通り）したそれぞれの設問について○×にて回答する形式とし、**（2）望ましい方向性に関する設問**については、**成熟度レベルを適用した設問**とする。
- **具体的な成熟度レベルは、現行のDX推進指標におけるレベル0～レベル5の考え方を適用しつつ、レベル5については多くの企業から使いづらい、との声もあるため、「自社としてブランディングが確立できる取組か」「発展的な取組をしているか」など、望ましい方向性より先の取組を表す表現とする。**

定量指標の有無

- **定量指標は設定。**具体的な内容については今後検討。

（参考）第1回検討会における合意内容の確認

- DX推進指標の改訂において、第1回検討会を踏まえて、下記の方方向性で合意したとの理解であるため、本日は下記を前提とした上で議論を進めて頂きたい。
- | | |
|--------|---|
| 全体の方向性 | ➤ 指標は、 DX推進施策全体の政策の連続性も鑑みて検討を進めていくこと 。そのために、政策の連続性から逸脱するものにはしないこと。 |
| 総論 | ➤ 指標は、 ①企業に気づきを与えること、及び②企業が抱える問題を深く知ること 、をそれぞれ目的として改訂を進めること。
➤ その上で、政策の連続性も鑑みて、 ①DX認定を目指す企業、及び②より先進的なDXの取組を目指す企業（DX銘柄・DXセレクションを目指す企業） をターゲットとしていくこと。 |
| | ➤ 指標の内容は、DX推進施策の考えとして共通的な デジタルガバナンス・コードに沿ったもの にしていくこと。 |
| | ➤ 指標の構成は、 企業規模では分類しないこと 。 |

3. 第4回検討会における論点

これまでの合意内容及び第3回検討会における論点

第3回検討会での合意内容（検討の前提）

具体的な成熟度レベルの考え方

- レベル0からレベル5の段階で設定すること。
- レベル0からレベル4は個社内の取組として、レベル5は、個社内の取組ができている前提で、個社の枠を超えた取組としてそれぞれ設定をすること。
- レベル5については、社会価値を創出していることや業界の中でも先進的な取組を行っていることを評価する表現とすること。

具体的なDX推進指標（仮）の立て方

- レベル5は、個社の枠を超えて業界を大きく変えるイノベーションを起こしている取組を評価するものであり、各設問におけるレベル5の記載ぶりは統一的なものにすること。
- 連続性のある「望ましい方向性」の記載については、設問を分けず、一つの設問とすること。
- 「望ましい方向性」に記載の内容は（一部例外はあるものの）基本的にはレベル4相当であるため、設問は抽象的な記載としつつ、各レベルの段階の記載で望ましい方向性へのステップを記載すること。

第4回検討会における論点

- 論点①：システム構築に伴う各論点について
 - A) 今回の指標の提出手段をExcelとするか、Webフォームとするか
 - B) 今回の改訂においても、記述の項目を設けるか
 - C) 今回の改訂においても企業の3年後の目標値を入れる仕様とするか
- 論点②：具体的な成熟度レベルの考え方について
 - レベル0～レベル5における具体的な成熟度レベルをどのように考えるべきか
- 論点③：DX推進指標（仮）の具体的な設問について
 - 具体的なDX推進指標（仮）の項目について、デジタルガバナンス・コードにおける柱立てのうち、「1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定」、「2. DX戦略の策定」及び「5. ステークホルダーとの対話」に関する設問についてどのように考えるべきか

論点①：システム構築に伴う各論点について

A 指標の提出手段をExcelとするか、Webフォームとするか	詳細	➢ 現行のDX推進指標においては、Excelにおいて回答を受け付けている。DX推進ポータルにもExcelで提出を求めている。 ➢ 一方、現在は導入していないが、DX推進ポータルを通じたWebフォームによる回答受付も選択肢として存在。 ➢ 今回の指標の提出手段をExcelとするか、Webフォームとするか。
	事務局案	➢ 事務局としては、特に規模の大きい企業を中心に、部門ごとに回答の上、全社的な回答を作るケースも想定されるため、Excelでの提出、とすることが良い、と考えるが、いかがか（実際に特に大企業においてはExcelを希望する声が多い）。
B 記述の項目を設けるか	詳細	➢ 現行のDX推進指標においては、任意の記載欄として、各設問毎に「なぜその成熟度と判断したのかの根拠、確認方法/エビデンス等」及び「アクション欄」を設けている。 ➢ 今回の改訂においても、記述の項目を設けるか。
	事務局案	➢ 事務局としては、引き続き必須で記述を求めることはしない形とし、任意にて記述の記載を求める欄を設けることで良いのではないか、と考えるが、いかがか。
C 企業の目標値を入れる仕様とするか	詳細	➢ 現行のDX推進指標においては、成熟度レベルにおいて現在値のみならず、経年変化を把握し、進捗管理を行う、という活用を想定し、3年後の目標値も併せて設定させることとしている。 ➢ 今回の改訂においても企業の3年後の目標値を入れる仕様とするか。
	事務局案	➢ 今回の指標改訂においても企業が経年変化を把握し、進捗管理を行うことを想定しているが、今回改訂予定の指標における成熟度レベルにおいては、レベル4がデジタルガバナンス・コードにおける「望ましい方向性」となるように設定をする方針。 ➢ そのため、目標値は「望ましい方向性」（＝レベル4）であることから、事務局としては、今回は目標値を設定させる仕様としなくても良いのではないか、と考えるが、いかがか。

(参考) DX推進指標の望ましい提出方法

- Excelでの記載を求めているDX推進指標の望ましい提出方法として、大企業はExcelを希望する割合が高く、中小企業はWebフォームを希望する事業者の割合が高い。

DX推進指標の望ましい提出方法（単一回答）

			Excel	Webフォーム	その他	無回答
全体	合計		244	228	29	2
	割合（%）		48.5%	45.3%	5.8%	0.4%
企業規模	大企業	合計	98	58	19	0
		割合（%）	56.0%	33.1%	10.9%	0.0%
	中小企業	合計	126	142	6	1
		割合（%）	45.8%	51.6%	2.2%	0.4%

（注）全体の企業数は、「大企業」「中小企業」「回答なし・不明」を合算した数値であるため、「大企業」及び「中小企業」を合算した数値とは一致しない。小数第二位を四捨五入。
（出典）DX推進指標実施事業者に対するアンケート調査を基に作成。

論点②：具体的な成熟度レベルの考え方について

- 検討の前提
- レベル0からレベル5の段階で設定すること。
 - レベル0からレベル4は個社内の取組として、レベル5は、個社内の取組ができている前提で、個社の枠を超えた取組としてそれぞれ設定をすること。
 - レベル5については、社会価値を創出していることや業界の中でも先進的な取組を行っていることを評価する表現とすること。

事務局案						企業の枠を超えた取組
成熟度	企業価値の向上を目的とした個社のDXの取組					レベル5
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	
	未着手	一部の部門での散発的実施	全社戦略に基づく一部の部門での実施	全社戦略に基づく各部門での実施	全社戦略に基づく持続的・部門横断的な実施	個社の取組を超え、社会価値を創出する水準での実施
考え方						
	➤ 経営者は無関心か、関心があっても具体的な取組に至っていない	➤ 全社戦略が明確でない中、一部の部門での試行・実施にとどまっている	➤ 全社戦略は存在しているものの、各部門の取組をまとめたものになっているとともに、取組は一部の部門にとどまっている	➤ 全社戦略は存在しているものの、各部門の取組をまとめたものになっている ➤ 取組は各部門で実施されている	➤ 全社戦略が明確で、見直しを図りながら取組が実施され、企業文化として根付いている（「望ましい方向性」のレベル）	➤ 個社の取組において、レベル4に達している状態 ➤ その上で、社会課題解決/サプライチェーン全体のDX推進など、社会価値を創出する水準で取組が実施されている

- 論点
- A) これまでの議論を踏まえて、上記の成熟度レベルの設定（特に、レベル5）が適切な記載になっているか。
- B) 特に個々の設問におけるレベル5の表記は統一的な記載とするものとして適切な内容となっているか。

（参考） 現行のDX推進指標における成熟度レベルの考え方

- 現行のDX推進指標においては、未着手（レベル0）からグローバル市場におけるデジタル企業（レベル5）まで6段階に分けて成熟度レベルが設定されている。

現行のDX推進指標の成熟度レベル及び特性

レベル0 未着手	➤ 経営者は無関心か、関心があっても具体的な取組に至っていない
レベル1 一部での散発的实施	➤ 全社戦略が明確でない中、部門単位での試行・実施にとどまっている
レベル2 一部での戦略的实施	➤ 全社戦略に基づく一部の部門での推進
レベル3 全社戦略に基づく部門横断的推進	➤ 全社的な取組となっていることが望ましいが、必ずしも全社で画一的な仕組みとすることを指しているわけではなく、仕組みが明確化され部門横断的に実践されていることを指す
レベル4 全社戦略に基づく持続的实施	➤ 定量的な指標などによる持続的な実施 ➤ 持続的な実施には、同じ組織、やり方を定着させていくということ以外に、判断が誤っていた場合に積極的に組織、やり方を変えることで、継続的に改善していくことも含まれる
レベル5 グローバル市場におけるデジタル企業	➤ デジタル企業として、グローバル競争を勝ち抜くことのできるレベル ➤ レベル4における特性を満たした上で、グローバル市場でも存在感を発揮し、競争上の優位性を確立している

論点③：DX推進指標（仮）の具体的な設問について

**具体的なDX推進指標（仮）の項目に言及しているため、
非公開**

4. 今後のスケジュール

今後の検討スケジュール（案）

検討会日程	アジェンダ
第1回 2025年1月16日	➤ DX推進指標の振り返りと現状の活用状況の共有、DX推進指標に係る課題と論点の提示及び総論（指標を活用する目的、指標の方針・構成）に関する議論
第2回 2025年3月28日	➤ 総論に関する議論を踏まえ、指標の内容について議論
第3回 2025年4月24日	➤ 第2回までの議論を踏まえ、成熟度レベルの具体的な考え方及び具体的な指標の中身の作成方法について議論
第4回 2025年5月23日 (本日)	➤ システム構築に伴う各論点、具体的な成熟度レベルの考え方及びDX推進指標（仮）の具体的な設問（「1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定」、「2. DX戦略の策定」及び「5. ステークホルダーとの対話」）について議論
第5回 2025年6月6日	➤ DX推進指標（仮）の具体的な設問（「3-1. 組織づくり」及び「3-2. デジタル人材の育成・確保」）について議論
第6回 2025年6月16日	➤ DX推進指標（仮）の具体的な設問（「3-3. ITシステム・サイバーセキュリティ」及び「4. 成果指標の設定・DX戦略の見直し」）について議論
第7回 2025年6月24日	➤ 定性指標の全体確認、定量指標に関する議論及び指標の認知及び活用等について議論